GA330

表象文化演習—ジャンル横断的プロジェクト・チームの結成とコンテンツ制作の実習—

島田 雅彦

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミを作品制作班と研究班に分け、前者では映像制作やキャラクターや脚本の開発を行い、後者はおもに文化研究、サブカルチャー研究に当たってもらう。個々のテーマに沿った論文やエッセイ、小説、シナリオなどの執筆指導も行うが、その成果をドキュメンタリーや映像作品に仕上げることも可能。両者に共通しているのは、コンテンツ作りの具体的なノウハウ、理解や共感を作り出す実践的な表現テクニックを磨くレッスンを行うことである。

【到達目標】

秋学期の学部学会に向け、計画的に論文、作品制作をすすめ、より完成度の高い映像作品の制作、問題に鋭く切り込む批評、エッセイの執筆を指導する。個々の中に眠っている表現欲や表現スキルを春学期のうちに開発するので、秋学期には成長の証明を学生諸君に求める。

【授業の進め方と方法】

セメスターの初めに企画会議を行い、各班の方針を決め、早速、必要なレッスンの準備に取り掛かる。またゼミ生が個人的に興味を抱いているテーマを開き、今後いかに研究を進めるべきか、またどのような形態でその成果を発表するかの相談を受ける。共通の問題系での思考、議論を通じ、また個人研究の指導を通じ、コンテンツ作りに必要な企画力、事務能力を育めればと思う。春学期はエッセイや論文、シナリオや映像の試作品を作ることに当てられるだろう。夏合宿や課外授業を挟んで、秋学期には春学期の成果を生かし、公開可能なレベルの映像作品、エッセイ、そして論文の完成までを指導する。

文章であれ、音楽であれ、映像であれ、身体表現であれ、表現意欲や好奇心あふれる諸君、眠っている才能を開花させたい学生、プレゼン能力を向上させたい学生などの能動的な参加を望む。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1. はじめ	ゼミの狙い	自己紹介の発展形としてのセルフプロモーション 「私」の研究
2. 企画	企画会議	キャラクター開発の具体例 歴史上の人物の研究
3. 企画	企画会議	キャラクター開発 現在必要とされるヒーロー、ヒロイン像
4. 実習	基礎編	カメラ、録音機器、編集ソフトの扱い
5. 実習	基礎編	シナリオの書き方 原作のもじり方 脚色の魔術
6. 実習	基礎編	カット割り、絵コンテ、カメラワーク
7. 発表	試作品作り	簡単な映像作品、ビデオクリップを作る。各班に分かれ、小品の競作。
8. 個人研究	個人研究テーマの発表	それぞれのテーマ選びに際し、アドバイス
9. 個人研究	個人研究テーマの吟味	個別相談
10. 共同制作	本作品製作に向けての準備	企画会議
11. 共同制作	本作品の制作準備	本作品の製作開始

12. 共同制作	本作品の制作	ロケハン、リハーサル、撮影①
13. 共同制作	本作品の制作	ロケハン、リハーサル、撮影②
14. 共同制作	本作品の制作	撮影、編集
15. 共同制作	本作品の完成	撮影、編集

秋学期

回	テーマ	内容
1. 共同製作	本作品の上映	撮影、編集、完成
2. 個人作品制作	新たな企画	個人もしくはグループに分かれ、再度、企画会議
3. 個人作品制作	思い思いのコンテンツ作り	個人もしくはグループに分かれ、再度、企画会議
4. 論文指導	3年のレポートのための指導	中間発表①
5. 論文指導	3年のレポートのための指導	中間発表②
6. 個人作品制作	撮影、編集	複数の作品作りを同時進行で行う①
7. 個人作品制作	撮影、編集	複数の作品作りを同時進行で行う②
8. 個人作品制作	撮影、編集	複数の作品作りを同時進行で行う③
9. 学会準備	春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	これまでに培った技術を生かし、新たな作品作り 映像編
10. 学会準備	春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	これまでに培った技術を生かし、新たな作品作り 論文、エッセイ編
11. 学会準備	春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	これまでに培った技術を生かし、新たな作品作り
12. 学会発表	一年の成果の公開	商品化、完成度アップ
13. 学外発表	学外でも成果公表	うまくいけば商品化
14. 論文指導	レポートの発表	面接試験
15. 論文指導	レポートの発表	論文評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

編集ソフトやカメラの扱いに関しては学外研修もあり。ゼミの時間外にこちらが推薦する映画、書籍にできるだけ多く触れること。

【テキスト（教科書）】

「小説作法 ABC」新潮社刊 それ以外は授業で指示する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

共同製作での役割、個人研究の成果、学部学会発表などの総合的評価で決定する。評価基準は平常点 20 %、レポート、論文 80 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

共同作業の中では必ずサボる学生がいる。ゼミ内の温度差を解消する。

【その他の重要事項】

2017年度は水曜日の4限に授業を行う。

管理 ID：
1705233
授業コード：
C1109